

ちばの地域福祉

『地域住民のための地域共生社会の実現とは…』

中核地域生活支援センターさんネット(山武圏域)
センター長 吉井 稔

現在、国が進める「地域共生社会」の実現に向けて、制度の改正や創設がなされ、施策の整備と実施が各自治体で進められている。地域包括ケアシステムの推進、市町村における包括的支援体制の整備・介護保険法及び障害者総合支援法での共生型サービスの設置、保健医療や教育・法律分野での在宅及び地域支援の拡充も図られている。

一方で、制度創設の度に相談・支援機関も同時に作られることで、支援者自身が他分野他機関の相談・支援機関がどのような役割を担っているのかよくわからないという声も多く聞く。地域住民は、尚更、これらの制度や相談機関1つ1つの役割や機能を理解することは難しく、支援機関を介さないと制度の理解や利用方法もわからず、活用できないことも多い。ましてや、情報難民ともいえる「新聞未購読者・自治会未加入者・電話やテレビのない家庭・日本語のわからない外国人」等は、情報が十分行き届かず、制度が活用できないことでさらに不利益な状況になる。このようなことがないよう、地域共生社会を考える時、支援を必要とする「すべての地域住民」に情報や支援が行き届く地域社会の仕組み作りも含め制度構築をすることが重要となる。

一人で出来ること、一つの民間機関で出来ることは限られている。一つの市町村行政だけで出来ること・把握できることも限られており、県の機関もしかりである。だからこそ、縦割りの施策や、市町村・県・民間機関の壁を取り払い、一人の相談者に「継続的」「重層的」な支援を行える体制整備が必要不可欠となる。

中核地域生活支援センターは、個人や家庭における個(戸)別相談と地域づくりを両輪として活動している。中核センターの事業である「包括的相談支援事業」「地域総合コーディネート」「市町村等バックアップ事業」の具体的な実践として、市町村や関係機関等への個別事例の後方支援とともに、①多分野多機関における連携のための取り組みや情報発信、②市町村や関係機関等とともに、最大の課題である「少子高齢・人口減少」を踏まえた相談支援体制づくりや地域づくりに取り組んでいきたい。

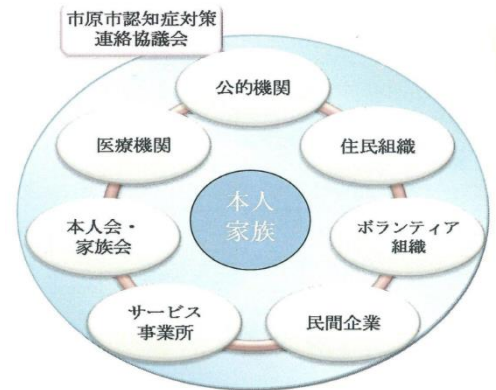
『いちほら福祉ネット』の地域づくり(市原圏域)

出張『よろず相談』での地域ニーズの掘り起こし

～市原市認知症対策連絡協議会での活動を通して～

平成30年4月1日現在、市原圏域（市原市）の総人口は277,039人、この内65歳以上の高齢者人口は77,339人。高齢化率は27.9%で年々上昇しています。

『市原市認知症対策連絡協議会』は、全国的に認知症を発症する方が増加する中、平成25年に医療・介護・福祉・行政・企業・地域住民などそれぞれの立場から協力し合い、認知症になっても安心して生活できる市原市を目指して発足し、認知症に関する様々な活動を展開しています。



私たちいちほら福祉ネットも協議会に参加しており、活動の一環として、地域で潜在化している問題の掘り起こしを図るために、地域包括支援センター・ケアマネジャー・精神科ソーシャルワーカーなどの専門職と市内で行われるイベントで『よろず相談コーナー』を設置しています。このコーナーでは、高齢者の問題だけでなく、子ども・障がい・ひきこもり・生活困窮など、様々な生活上の相談に応じています。

このような活動の背景には、高齢者の相談を受ける中で、『ひきこもりの子どもがいて自分がいなくなった後が心配…（8050問題）』、『介護と子育てをシングルマザーの娘が支えていて負担が大きい（ダブルケア）』など、いわゆる『複合的な課題を抱えた相談』が近年増加していることがあげられます。

しかし、問題が複雑になるほど、相談窓口につながる事が難しくなってしまうため、地域の中に関係者が出ていく『よろず相談』を開催することは、安心して生活ができる地域づくりを行う上でも、意義があると感じています。

複合的な課題に対応するためには、一つの相談窓口だけでなく、複数の分野の専門機関が関わる必要があると感じています。身近な地域での相談活動がもっと広がっていくように、中核センターとして関係者と協働しながら今後も活動していこうと考えています。



『君津ふくしネット』の地域づくり(君津圏域)

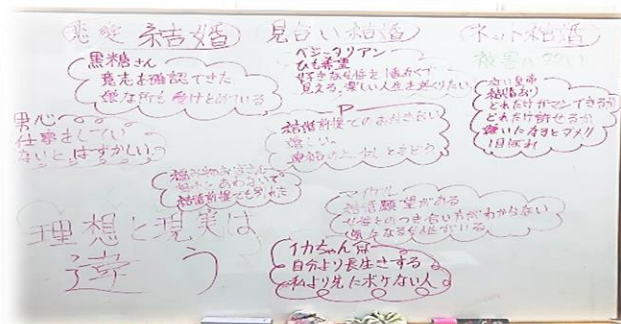
♡心のバリアフリー研究会♡

心の わだかまり を話してみませんか？

今回ご紹介するのは、当事者、ボランティア、福祉事業所、医師が役員となり、君津ふくしネットが事務局で運営をしてきた「心のバリアフリー研究会」です。地域フォーラムから発展したフリートークの「しゃべり場」として、地域の学びの場「公民館」の一室で月に一度自由な語り合いを続けて、平成17年から10年間毎月休むことなく行われていました。日頃、困っていること・悩んでいること・考えていることを発言したい場を探している人が集まっていました。

平成27年に、参加する皆さんの意見で閉会しました。閉会をしたら、少し淋しく「またやってほしい」という声があり、準備委員会を立ち上げ、この会のあり方を検討し、平成29年8月より、毎月第3木曜日 17:00~20:00 に木更津市市民活動支援センター「きさらづみらいラボ」にて、開かれています。新たな形は、集まった場でチラシをつくり、それぞれが一枚ずつ持ち帰り、配る形です。そして、参加者がゆるく長くこの会を続けていくために、事務局・問い合わせ先はなくなりました。そのため、気になる方は直接会場にお越しいただくようにしております。

新たに開会して、1年が経ち、参加者の皆さんと、楽しかったこと、悩みや不安なことを話し合う中で、すぐに解決できないこと、答えがなかなか見つからないこと、何とかなりそうではないことがいっぱいあります。参加者の方からは「帰ったあと、料理をしたりする気持ちの余裕ができた。ありがとう。」という言葉もありました。きっと、独自の価値観やその人の文化や物語に、周りの皆さんが寄り添い、心の「わだかまり」を共有することで、自分なりの答えを持ち帰り、次の一步を踏み出せたのではないかと思います。そんなあったかいしゃべり場は、どなたでも参加できますので、ぜひ一度お越しください。



この他にも、君津ふくしネットは、圏域4市（木更津・君津・富津・袖ヶ浦）の福祉活動に積極的に取り組み、顔の見える関係で、この地域の健やかさを、一緒につくっています。

例えば、「障害分野」では、障害者総合支援協議会に参加したり、地域を楽しく踊り歩くお祭り「やっさいもっさい」では、毎年障害者を中心に100名超えの団体「どたばた連」に参加して、夜の街で一緒に汗を流しています。「児童分野」では、要保護児童対策地域協議会に参加したり、子ども食堂にも地域の方と一緒に行って、食事をしたりしています。地域の子どもの祭りには、福祉事業所に食品販売等の呼びかけをして、障害のある方と、多くの子どもが関わり合うきっかけづくりをしています。「高齢分野」では、地域包括支援センター運営協議会に参加したり、認知症家族会に参加したりしています。「その他」では、市の生活困窮事業担当者を中心に毎月開催される事例検討会「すぶりば」に参加。市内開催のパラリンピック種目「ボッチャ」の第1回大会に参加。当事者・支援者、誰でも一緒にご飯を食べる「夜寄るごはん会」で、食事をしたり、歌ったり、踊ったりしています。

これからも、この地域のつながり、人と人とのつながりを大切にして、活動をしていきたいと思えます。

「生活クラブくらしと家計の相談室」は、生活困窮者自立支援制度が本格スタートした2015年（平成27年）4月1日に開所し、相談と一体となった貸付事業である「生活相談・家計再生支援貸付事業」を開始しました。事業主体は、生活クラブ生活協同組合であり、いわゆる「生協」です。皆さんにおなじみのトラックで食材を配達する供給事業のほか、共済事業や福祉事業など、生活の向上に必要なことを協同して事業化し活動しています。相談・貸付事業は、首都圏では、千葉県的生活クラブ生協のみの取り組みです。皆様にはご支援、ご理解をいただき、相談受付の約4割が支援機関・窓口からの連携によるもので、件数は年々増えています。面談をおこない、「家計収支表」を作成し、家計を「見える化」します。他制度優先とし、必要に応じて貸付の申込みを受け、審査のうえ、最小限のお貸付けをしています。

この3年半で約1,500件の相談を受けましたが、同じ相談は一つとしてありません。相談者さん一人ひとりと向き合い、ときには支援者さんとも一緒になって、伴走しながら日々解決策を考えています。相談・貸付事業が地域福祉の一助となるように、皆さんとともに活動していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

室長 依知川 稔（いちかわ・みのる）

くらしと家計の相談室 千葉 [検索 https://kurashitokakei.jp/](https://kurashitokakei.jp/)



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

「第10回 千葉県障害者グループホーム大会」

グループホームの原点と未来～繋がる^{たすき}襷～

- 日時：平成30年12月1日（土） 10：00～15：30
- 場所：千葉県教育会館
- 参加費：無料 定員450名 先着順
- 内容：基調講演「施設と地域のあいだで考えた ～グループホームの可能性を視野に～」
講師 福岡 寿氏（社会福祉法人 高水福祉会 参与）
分科会①「シンポジウム」 分科会②「入居者トークセッション」
分科会③「家族のしゃべり場」分科会④「入居者・入居希望者交流会」
- お問い合わせ先：千葉県健康福祉部障害福祉事業課事業支援班 担当 青柳
TEL 043-223-2308

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：いちほら福祉ネット（市原圏域）市原市東国分寺台3-10-15

TEL:0436-23-5300 FAX:0436-23-5225

編集：海匠ネットワーク（海匠圏域）旭市口-838

TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579